

## 【スキー教室を終えて】

2月8日から10日までの3日間5、6年生と一緒にスキー教室に行ってきました。この行事は、宿泊を伴う行事であるため、子どもたちの健康管理が最も大切です。子どもたちは、友だちと一緒にスキーをし、宿舎での生活を楽しむことができていたと思います。その3日間の生活の中で、特によかったなと感じたことは、宿舎の方、レンタル用品屋さん、インストラクターの方への挨拶がしっかりとできていたことでした。「ありがとうございます」という言葉があちこちから聞こえてくるのは、引率をしていた教員の一人として大変うれしく感じました。2回目のスキー教室であった6年生はそういう意味において、しっかりと5年生の手本となってくれていました。5年生も、今年のスキー教室での経験を来年しっかりと発揮し、素晴らしい力を発揮してくれるものと期待をしています。

## 【つぶやき】

4年生の男の子が、あるとき「最近お母さんがあまり遊んでくれないんだ」と私に話してくれました。いつもは賑やかな子どもなのですが、そのときの表情はちょっと寂しそうだったのを覚えています。個人差はあるのですが、親とのふれ合いが子どもたちの心の支えになっていることは間違いありません。細かいことまで指示されたり、口うるさく言われたりすることは嫌でも、やはり見守っていてほしい、ときには一緒に遊んでほしいと思う子どもの気持ちがその一言から伝わってきました。

この学校の子どもたちは比較的親子のふれ合いの時間を多く作ってもらっていて、心の安定の面では大きな心配はないと思われます。保護者の皆様も、親の立場からだけでなく、ときには子どもたちの側から「どうして欲しいのか」「何を望んでいるのか」ということをお考えいただいていることでしょうか。

また、子どもの自立という面から考えた接し方についても、考え悩むこともおありかもしれません。子どもの自立を促すことは大切なことですが、あまり無理なことを要求してしまうことは避けなければならないでしょう。自立を急ぎすぎると、親の期待に応えようと頑張る子どもがある時点で息切れをしてしまい、結果的には自分をコントロールできなくなってしまい、ときには、高学年になってからでも突然異常なほどに親に甘えてしまうようになることすらあるようです。

子どもの実情を一番理解しているのは毎日一緒に生活されている保護者の皆さんです。子どもたちがどんな気持ちで毎日の生活を送っているのかを把握していただき、学校にもお知らせいただけるとありがたいです。

## 【自分で考え、判断できる子に】

子どもたちの学校での生活、登下校時の様子を見聞きして、子どもたちに「もう少しよく考えてから行動できるようにしてほしいな」と思うことがあります。そのように思うことは複数の子どもたちが一緒に活動している場面で多く起こります。子ども集団の中で見られる言動において、何か問題になるようなことがあったとしても、その都度じっくり向き合って話し合えばその良し悪しは容易に理解することができることがほとんどなのですが、実際にはなかなか歯止めが効かなくなることがあるのでしょうか。

家庭では、身近で保護者の皆さんが子どもたちを見守ってくれているので、それほど驚くようなことは起こりにくいと思いますし、子ども自身も、単独ではいわゆる常識からはずれた行為は行わないでしょう。しかし、子どもたちだけで活動しているときは、私たちが予想していないようなことがしばしば起こります。ときどき保護者から、学校で起こる様々な出来事について、「なぜこういうことが起きるのか理解できない」「一体どうなっているのだ」というようなお叱りをいただくことがあります。まさにご指摘の通りであり、私たちも首を傾げてしまうようなことが起きてしまうことがあるのは確かです。

学校では子ども同士のふれ合いの時間が多いため、子どもたちの間で交わされる会話や遊びの全てを教員が把握することは難しいのです。それだけに、子ども一人ひとりが自分自身の感情や言動をうまくコントロールできるようにすることが求められます。

子どもの世界であっても、人と人との関わりの中で成り立っています。その関係の構築は、過去、現在、未来という時間の連続性の上にあるものであり、その中で起きる人間関係のトラブルは、ゲームのようにスイッチを入れ直すことでリセットできるものではないことを子どもたちが理解した上で、良好な関係を築いていくように声をかけていかなければなりません。

## 【児童造形展】

第42回児童造形展が鎌倉芸術館で行われました。私も見学に行きましたが、参加していた学校の造形活動への取り組みの特徴を見ることができ大変勉強になりました。昨年見学に行ったときに、他校の取り組みに私なりに刺激を受け、少しでもそのよい部分を桐光の造形活動に取り入れていきたいと考え、図工担当の教員と話をしました。図工の授業にも必要に応じて複数の教員を配置したこともあるのか、今年はこれまで以上に充実した授業が展開されていたと思います。また、その結果が今回の造形展においても、児童の作品を通して感じられたことは大変うれしいことでした。遠いところ足を運んでいただきご覧いただいた方もいらっしまったと思いますが、いかがでしたでしょうか。